

平成24年度 第4回石狩市都市計画審議会 会議録

会議日時：平成25年2月19日（火）午後2時00分～

会議場所：石狩市庁舎5階 第1委員会室

出席者：堂柿会長、景井委員、椎野委員、伊関委員、伊藤委員、若林委員

事務局：南建設水道部長、清水都市計画担当課長、安彦主査

傍聴者：なし

<清水課長>

本日は大変お忙しい中ご出席を頂き、誠にありがとうございます。

それでは開会に先立ちまして、建設水道部長の南より諮問書をお渡し致します。

<南部長>

石狩市都市計画審議会会長、堂柿栄輔様、石狩市都市マスタープランの中間見直し及び石狩市水とみどりの基本計画の中間見直しについて諮問しますので宜しくお願いします。

石狩市長、田岡克介

<清水課長>

引き続きまして、南建設水道部長よりご挨拶を申し上げます。

<南部長>

本日は雪道で足元も悪い中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。ただ今、堂柿会長に石狩市都市マスタープランの中間見直し及び、石狩市水とみどりの基本計画の中間見直しについて諮問させて頂きました。この2つの計画は、環境基本計画を含む3つの計画を策定するため、平成11年から2年をかけて市民とともに議論を重ね、20年後の姿をイメージした中で、都市や自然環境のあり方等について計画としてまとめたものであります。この間、旧厚田村と浜益村との合併や、急速な高齢社会の進展、また、長きに亘る経済状況の低迷により、計画の幾つかは位置づけしたものの、廃止や縮小する方向に転換をはかることになっております。一方で東日本の大震災を受け、災害に対応したまちづくりや、石狩湾新港で進められている新エネルギー、あるいは新産業に対応した土地利用や、森林への保全活用、水資源の保全に対する方策など、新たな課題への対応が求められております。今回の計画の見直しは、基本的には当初計画を踏襲しながらも、これらの課題にも一定程度対応した計画としております。本審議会においても、これまで様々な角度からのご意見を頂きました。大変ありがとうございます。先般、パブリックコメントを終えたことから、本日最終的な案として諮問させて頂いたところでございます。委員の皆様におかれましては、これまでの議論を踏まえ、ご審議をお願い致します。また、本市のまちづくりの方向性におかれましては、今後とも、尚一層のご助言を賜りますよう心からお願いを申し上げ挨拶に代えさせて頂きます。本日はどうぞ宜しくお願い致します。以上です。

<清水課長>

本日の審議会に際し三津橋委員、田中委員、渡辺委員、瀬尾委員から欠席される旨の申し出がありましたので、ご報告致します。また前回の審議会では傍聴者が1名おりましたが、傍聴者からの感想、意見の提出については無かった事をご報告致します。それでは会長をお願い致します。

<堂柿会長>

それでは平成24年度第4回石狩市都市計画審議会を開催致します。本日の議題はただ今、諮問書を受け取りました、石狩市都市マスタープランの中間見直しと、石狩市水とみどりの基本計画の中間見直しについてであります。これまで2度程事前説明をさせて頂きましたので、概ね内容につきましては皆さんご理解されていると思いますが、更に何か事務局からご説明はございますでしょうか。

<清水課長>

それでは私の方から都市マスタープランと水とみどりの基本計画の中間見直しにつきまして、本日資料はございませんけれども、口頭で補足説明をさせて頂きます。これまでの取り組み状況を振り返りますと、本日の審議会迄の間に合計2回の事前説明をさせて頂きました。最初は11月8日、2回目は前回の12月11日です。最初の11月の審議会では、事務局が作成致しました見直し原案について事前説明をさせて頂き、前回の12月の審議会では、この11月の審議会での意見を反映すると共に関係機関からの意見等も反映して再修正して作成した見直し案について改めて議論して頂きました。この中でのご意見として、本日は欠席されておりますけれども、田中委員から都市マスについて、環境に関する記述が弱いのではないか、とのご意見がございました。そこでその対応ですが、お手元の都市マスの21ページをご覧頂きたいと思います。都市マスの21ページには、「第3章都市づくりの基本スタンス」がございます。その中に環境に配慮する為の記述を2か所追加して盛り込む事で、計画全体に環境に配慮する考えが反映されるように致しました。まず1ヶ所目は、「1. 環境と共生する社会の実現を目指した取り組み」の項目の中の下から2行目の所で、「生物の多様性を保全し」という文章を追加致しました。また、「4. 都市、緑地の保全、創出と交流の推進」の下から4行目、後半の所で、「みどりの質的量的な充実を諮る事により、みどりによる都市の低炭素化を促進する」という文章を追加致しました。以上の修正を加え、パブリックコメントを実施した所でございます。実施期間は12月21日から1月21日までの1ヶ月間で2計画とも意見の提出はございませんでした。

本日お示ししました2つの冊子はこれらの手続きを経て作り上げた最終案となっております。それではご審議の方宜しくお願い致します。

<堂柿会長>

説明ありがとうございました。これらを踏まえて質議に入りたいと思いますが、如何でしょうか。諮問としては1点なんですが、内容は2つの中間見直しで、事務局の方としては、一括して質疑してもよろしいですか？

<清水課長>

はい。

<堂柿会長>

それではですね都市マスタープランと水とみどりの基本計画の中間見直しについてどちらでも結構ですので、どうぞご意見、質問お願い致します。

<伊関委員>

水とみどりの基本計画の中で、色々な写真を使われていますよね、図書館の写真とか、それは新しい写真は使われないのかなって。

<堂柿会長>

何ページですか。

<伊関委員>

例えば、65ページにも図書館の写真があるんですけども、これ1番最初に作ったときの写真だと思うんですけども、今回見直しに当たって、新しい写真は使われないのかなあと思ひまして。

<清水課長>

今回はですね、予算もほとんどゼロでやっているものですから、本来であれば新しいものに切り替えるのが望ましいとは存じますけれども、当初の計画を活かしてという事で、そのまま活かしているところです。

<伊関委員>

そうですね、分かりました。

<伊藤委員>

パブコメやって意見が1つも無かったということなのですが、これから、何かの団体に提出するとか、こちら側から働き掛けはあるのでしょうか？ 今後は、出来上がってからということなのでしょうか？

<清水課長>

そうですね、出来上がりましたら図書館ですとか、あるいは1階の行政資料コーナーですとか、そういった場所で閲覧できるような形になりますし、後、関係する団体、道ですとか、そういったところにも、お配りすることにはなっております。

<伊藤委員>

何となく決まってしまうてからのお話だと、後、辛いのかなという思いもあるけれども、分かりました。

<堂柿会長>

これはずっと先の話ですけども、今これ中間見直しですよ、見直しのスケジュールのことをちょっと忘れたんですけども、この次というと5年後なんですか。

<清水課長>

目標年が32年ですので、作業としては恐らく1年あるいは2年前にかかる形になろうかと思ひますので、平成30年とか平成31年ですから、5年後あるいは6年後位に見直し作業という形になるのではないのかと、まだ先の話ですので、具体的な作業のスケジュールまでイメージしていないのですが、そんな形になるのかと思ひます。

<堂柿会長>

それ位先のことだと、ここにいる我々は多分全員いないと思ひますので、その意味ではちょっと無責任に想像すると、それ位先になってくるとどういふような課題が石狩には上がってきそうですかね。

<南部長>

これから若干課題も含めてですが、今、花川北の団地ですが、年齢構成が造成時に一斉に住み出した団塊世代以上がほとんどなのです。そこに子供たちがいなくなって高齢化が進んでいるような状況で、現実的には、まちが人と共に年を取っている状況なのです。今後そういう中で、今、空き家になっているとか、また新しい世代がいなくなっている状況とか、どのような形で模様替えしていくのが1番ベストなのか、それはこれから今日みなさんに課題を投げかけて頂きまして、今後の整理の材料にしたいなと思っております。

<清水課長>

今日この審議が終わった後、その他案件で、事前にどんな課題があって、今後どのようにすべきかという資料を用意させて頂きましたので、後ほど紹介させて頂きたいと思っております。

<堂柿会長>

そちらの方の話題も面白そうと言ったら失礼ですけれども、ちょっと興味のあることです。この2つの諮問についても、何もなければ、宜しいですか。

<一同>

異議なし

<堂柿会長>

それでは、本日の諮問案件2件について妥当であるという答申をさせて頂きたいと思えます。文案については私どもに一任させて頂きたいと思えます。宜しくお願い致します。

<清水課長>

それではスライドを使って、説明させて頂きたいと思えますので、少々お待ちください。来年度以降の都市計画の見直しという事で、今日ご紹介させて頂きたいと思えます。実は今日お示しする内容につきましては、まだ市役所全体として整理されているものではないということを前置きさせて頂きまして、あくまで事務局として、今考えてる現時点での概要をお知らせするという、来年に向けて動き出さなくてはいけないと思えているところでございます。来年度は、都市マスにも盛り込んでおりますように花川北地区を対象区域として、都市計画を見直していきたいと考えております。見直しのスケジュール案でございますけれども、まず平成25年につきましては、6月から年明けの3月までの10ヶ月間を市民意見を把握する為の期間としたいと、これは充分時間をかけてやっていきたいと。と言いますのは、来年度で都市計画の手続きを全部終了するというスケジュールだと、市民の意見を聞く時間がとれないとか、色々そういうことも懸念されますので、まだ市役所全体として意思統一をしていませんが、事務局としては、この市民意見の把握というところに時間をかけたいと思っております。そしてこれは先の話になりますけれども、26年度、来年度ではなく再来年度になりますけれども、再来年度の4月から10月までの前半にいわゆる法手続きをしていきたいと考えています。いつもですと今申し上げたとおり、これを26年の3月迄のスケジュールで終わらせるような形で進めることがほとんどなんですけれども、ほぼ2か年位をかけてまとめていきたいと考えております。今の前半部をもう少し詳しく説明致しますと、まず市民意見を把握する為に、まちづくり意見交換会を今3回程度と書いていますけれども、みなさんが希望したら4回でも5回でもということになるかと思えますけれども、色々花川北地区を今後どうするのかということ、徹底的に

議論させて頂いた方がいいのではないかと思います。今3回程度意見交換してみたいなと、そしてそこから出た意見ですとか、あるいは私どもが考えている意見ですとかを踏まえて地区の人達に聞くアンケート調査を実施してみたいなと、それらを踏まえて最終的に都市計画の見直し方針を決定していきたいと考えております。ですからこの10ヶ月間で充分意見交換をやった上で、花川北地区の人達もまちづくりをこうするんだというのはある程度イメージができると思いますので、その10ヶ月間を費やしたいなと考えているところであります。次に、再来年度ですけれども、26年度につきましては先程も申し上げました様に、都市計画法に基づく変更手続きを進めていきたいなと思っています。都市計画の種類と致しましては、用途地域と花川北地区の地区計画、この2つを見直していきたいと考えております。次に、花川北地区の現状でございますけれども、これは都市マスタープランの中でも色々書かせて頂いたのですが、この地区独特の現状があると、1番目が非常に特徴的なんですけれども、市内の住宅地、緑苑台だとか樽川とか花川南とかございますけれども、その中でも最速で高齢化が進んでいるということ、2点目としては、高齢者世帯が非常に増加しているということと、空き家も増加してきているという状況でございます。これら2つの部分が重なり合って、地域コミュニティーの維持が困難になるのではないかとということが懸念されると現状で考えております。これらの現状を解決する為には、まず若年層の定住促進が急がれるのではないかと考えております。このことが、今年の6月以降、地区の方々と議論していかなければならない部分と考えているところです。都市計画をどのように見直しをしていくのかというところで、まず1点目ですが今ここには例示として示させて頂きました。再び内外で注目される場所になるよう規制内容を見直す、これはあくまでも私ども事務局案ですので、これは地区の人と色々議論した時にそうじゃなくてという違う意見も出るのかなと、ですからやっぱり共通認識に立って都市計画を見直していきたいと考えているところです。次、2点目としましては、どんな地区を目指していくのかという、ここも非常に重要なポイントかと思います。これも例示です。今ある緑の豊かさを活かしながら次世代に向け現在の住民にとってもさらに住みやすく地区の外からは是非住んでみたいと思える団地を目指すということで、新しい若年層の人達も当然呼び込むんですけれども、今住んでいる人達も益々良くなったねと言ってもらえるような見直しが必要なんじゃないかなということで、ここには例示として示させて頂きました。これが1番最後として検討してみたいなと、これもあくまでも例示ですけれども、みんながこういうまちにしたい、こういう団地にしたいという共通のイメージというか、キャッチコピーがあったら良いのではないかと、そうすることで単に都市計画の見直しだけでは、大きく変化ということを示すのは中々難しいので、やっぱり住んでいる人にもそうですし、外からの人にもアピールするようなキャッチコピーが欲しいということで、これは例示です。「実現、夢の平屋生活。人にやさしいまち石狩花川北」ということで、これで色々なイメージを持って頂けると思うのですが、こういったものも今度意見交換会の中でみなさんに考えて頂いてです、1番いいキャッチコピーを掲げて、そして都市計画を見直して外に発信するともしかしたら若い人たちにも注目して頂ける。注目して頂けるというのは、残念ながら今現在は注目度が非常に低いというのが現状です。というのは、みなさんご承知の通り新しい団地の方に目が向いています。石狩で言えば樽川ですとか緑苑台、あるいは花畔、ですから花川北というのは土地の供給も中々進んでないというのがあります。そういった意味では、改めてそこに目を向けて頂く為に、そこにキャッチコピーも必要なのではないかということで、例示として示させて頂きました。これはあくまでも市役所内では整理したものでありませんので、あくまでも事務局としてイメージが湧きやすいように作ってみたものです。以上でございます。

<堂柿会長>

ありがとうございます。これは議事自体ではその他でいいのですね。

<清水課長>

その他でいいです。

<堂柿会長>

そうすると、どんな事でもどうぞご意見なりご感想なりという事で宜しいですか。

<清水課長>

新年度に入ったら、またこういった部分を具体的に議論させていただきますので、その全体として色々私ども事務局もご意見を、お伺いしたいなと思いますので、非常にざっくりばらんに率直な意見を言って頂ければと思います。

<堂柿会長>

清水課長の方からは、必ずしも全体の合意のとれた訳ではなく、事務局の1つの例だというご説明頂いたのですが、案外そういうものの方が、生き生きとしたものが多いですよ。みんなで相談して最後の最後で取りまとめた案というのは、誰も反対はしないけど誰も面白いと思わないような案が多くて、だからこれは本当に宜しいのではないのかな。

<清水課長>

それと今まではどちらかというと、消極的な変更といいますか、ちょっと言葉が悪いですけど、外からの外圧と言いますか、意見を聞いて、それなら緩和しましょうかというような部分が多かったんですけれども、やはりこれだけ昭和40年代後半から50年代という事で、ちょうど40年がこの団地で経過したものですから、やはり抜本的な見直しといいたいでしょうか、新しく生まれ変わるんだというのを打ち出していかないと、ちょっとした修正では、多分変化はないんじゃないかなと思うのです。本日、三橋委員が来られていませんけれども、前々から二世帯住宅の需要ですとか、そういった部分で建ぺい率の緩和という話も出ておりましたし、議会でもそういったご意見も出ております。そんな中でも、今回これも今後議論していかなければいけない部分なんですけれども、やはりなかなか二世帯住宅というのはそういう家庭環境にないと、当然お子さんがいないと二世帯住宅って成立しません。そういうのがある程度容積率の緩和をしたところである程度いくつか出てきたんですけれども、その勢いも正直言って無くなってきているのではないかなと、これもアンケート調査でもう1回お伺いしたいなと思うんですけれども、だからそういう意味では、二世帯住宅に期待しているとそれだけでは、街が活性化していかないと、若年層が住んでかないという心配もございますので、やはり積極的に外から呼び込む、特に札幌に住まいされている若年層の人を、マンションも便利だけど、こっち側の緑豊かな平屋建て住宅で子供たちを伸び伸びと育ててみてはいかがですか、みたいな感じの部分でそういう勢いがつくと団地も非常に活性化するのかなと、そういうようなイメージを持って取り組みたいなと思っております。

<堂柿会長>

これ、パワーポイント、幾つかを見せて頂いたのをこの辺で全体を出せますか？全部で10枚ですか。

<清水課長>

そうです。あらためて、スケジュールの方をもう1回大まかに。今回初めて年度またぎというか、2年度、2つの年度で進めていってはどうかな、と先程説明したとおりですけども、やっぱり最初のこの10ヶ月間というか、こういうまちづくりをしたいんだという部分を多くの人達に分かって頂いて、さらにそれに対して自分たちも関わっていくんだという、今回私たちは都市計画担当なものですから都市計画手続きだけなんですけれど、この中ではもっとソフト的なもっとまちづくりのことも提案して頂くと良いのかなと思っています。ですから建設水道部全体で受け止める形、あるいは場合によっては福祉的な部分だとか環境的な意見ですとかといったことも、受け止めさせて頂く、そういった10ヶ月間になればいいのではないかなと思っています。

<南部長>

現実的には高齢化が進んできていて、やっぱり若干孤立化が目立ってきていると。実際には地域の繋がりが必要だとみんな言うのですが、現実的にはそうはなっていないのかと、その辺を具体的にどうすればいいんだというのが出てくれば、自然と計画が出来るのかなと思ってはいるのですがけれども。中々それが難しいのかなという気はしますよね。

<伊関委員>

さっき市民意見の把握って3回程って言っていましたが、もう少し細かい単位で、住んでいる人の意見を細かい単位で聞いて欲しいなと。

<清水課長>

地域を区切って。なるほど。

<伊関委員>

私たちも議会報告会を8回、会館でもやったんですけど、そこですごく身近な質問とか身近な事を聞かれたので、細かい単位で聞いて欲しいなと思いました。アンケートより意見聞いた方が良くと思うので、出向いて行ってやって欲しいなと思うのですがけれども。

<清水課長>

出来るだけそのようにしたいなと思います。この3回というのは、正直いいますと、大きな単位の3回というイメージでした。ですから今、ご意見の町内会館というかそういう単位でもやっていった方がいいというご意見だったので、出来るだけ沿えるようにしてみたいと思います。

<景井委員>

花川北でいきますと、うちも不動産やっていますので、お客さんに聞くと、1番のネックは道路なんです。やっぱり、緑苑台だとか、樽川を選ぶ方が多いですね。あそこは迷路みたいになっているのが1番問題だといっていますね。先程若い人たちが来ないっていう原因はですね、やっぱり緊急時だとか分かんなくなりますよね。前に都市計画で歩行者は段差を無くしていくような形にしていって出ていましたが、それだけでなく、今住んでいる方はそういう対応でいいのかもしれないですけど、他から若い人を呼び込むとなると、根本的な道路を何本か繋ぐとかしないと、なかなかあそこに住居を求めないと思いますね。

<清水課長>

今、景井委員がおっしゃられたような意見は、私たちも聞いております。また、逆もありまして、その袋小路がいいんだということで、それで安心して子育てできたという、ちょっと変な話ですけど、道路で安心して遊ばせる事が出来たという話も聞いております。多分意見は、男性と女性でちょうど意見が分かれるのかなというそういう傾向が感覚的なものですけど感じています。その辺も、やはり時代も変わりましたので、地域に入っとうするか、おそらく色々な地域で考え方違うと思うんですよね。うちの町内会は抜いて欲しいとか、1カ所抜けば相当便利になるんだっていうのもあるでしょうし、だからそこで上手く折り合いがつくところも見つかるかもしれないです。そういった部分では地域に入っとう色々ご意見を聞いた中でという形になると思います。

<伊藤委員>

景井委員とまったく同感で、その部分では両極端の意見があるのは事実ですけど、伊藤委員の言うとおりに、小さい単位できちっと入ってみんなの意見を積み上げるようにして、まちづくりを将来的に考えなかったら、一方では今言われたような道路をしっかりと通してほしい、そこに例えば緊急に必要なあったとしても、こっちからは行けないだとか、そういうようなまちづくりの状況があるとかという意見と、今言われたように外から全然意味なく車が入ってくることもなく、安心して子育てできた。だけど除雪が行き届かなくなるっていうか、雪が多く降雪が多くなってくると、これならどうにもならないという話にもなるということも。やっぱりそこに住んでいる人がきちっとまちづくりの根幹となる道路のことを住民からきちっと聞くことが、花川北にとっては一番大事な気がする。

<南部長>

今の利便性を高めるというのは非常に良い考え方だと思います。ただ、現実的な議論をすれば、今回もそういう道路を繋いだところが何か所ございまして、ただ町内会の中で議論すると、先程私が言った地域の繋がりが必要だというんですけれども、現実的にそこに出てくる人は半分ちょっとくらいなんです。会合に出てこない人も少なくない中で、いざやるとなると、会合に出てこない人の地先道路が対象になっていたりして、その人が絶対に反対するとなると、その地域はその人1人が反対したおかげでそこを通り抜けできるようにならないとか、やっぱりそう意味ではみんなさんが参加して、みんなの意見を聞いて、地域に根付くということになっていかないと、なかなか、いざやろうと思っても、地域としてできないというのもあるんですから、まずそういう環境も大事なかなと思っています。ただ、どうしたら地域にみんなが集まって話ができる環境になるかっていうと、やっぱりその地域に馴染んでいかないと、という回答もございまして、そういう面では、みんなさんの意見を聞きたいなと思っています。

<景井委員>

そういう問題で、今そこに住んでおられる地域の人で、この地区どうするかというのは必要なんですけれども、そこに新たな人を呼ぼうとするのであれば、地域の人達だけでは見えない部分ってあると思うんですよね。ですから例えば、市内の不動産関係をやってるあるいは建築関係をしてる、地区とは関係ないんですけれども、そこにお客さんを持っていくだとかそういう人たちの集まる場でね、その地区について、専門家ですからそういう視線でやってもらうというのも手なのかな。地域だと住んでいる側の発想ばかりなんですよね。新たなものは受け入れしないっていう風になるのかなと思いますよね。

<南部長>

やっぱり地域のなかで、参加されない方は、地域の環境がどんな状況になっていて、どれだけ環境が悪くなっているのか、と言うってということが分かっていない部分がありますので、やっぱり出てきてもらって、みなさんに意見を聞いて、こういう風にならないと空き家が解消できないだとか、地域の関係が良くならないんだとかを、みんなが同意されないと前に進めないのかな、という気もしているので、あとは地域のみなさんに顔を出して頂くような環境をどうしたらできるのかなと、それができないと、集まってもらわないと前に行かないのかな、という気もしています。

<伊藤委員>

例えば、防災サイドから見てもね、自助共助という部分でも、1番最初に自分が逃げなさいよ、というのがあったとしても、共助という部分では、やっぱり町内会がまとまって高い所に逃げるとすれば、公園の高台です、学校の3階ですよって言ったとしても、まちの形態で車で直接行けない状態だ、ということで防災上の問題も絡めて市役所なりに横の繋がり、連携取りながら地区に入るっていうのもどうなのだろう。今は本当に町内会の会員にならなかつたらダメなのかという人も増えてきている時代になっていて、3.11から、ようやくもうちょっとみんなで助け合おうよっていう雰囲気になりかけているような部分もあるので、この機を逃さずやっぱり、この町内会で言えるとすればですよ。みなさん助け合って行きましょうよ、ということを書いていく必要があるということをおもわないでもないです。我々なんかたまに來たらまずセイコーマートに戻るのです。そこからじゃなきゃ分からなくなるのです。どこを通れば出られるか、カーナビでようやく分かる。それから当時の寒冷地の住宅と、今の樽川辺りでみると住宅の素晴らしいこと。こんなヨーロッパのリゾート地に建てるような住宅のように豪華になってますよね。まちの持つ雰囲気が変わるんですよ。昔ながらの寒冷地の住宅というしっかりした建物の住宅が良いんだよなっていう時代から、デザイン重視に変わると若者はなかなか、難しいところだよ。まして高齢化が進んでくると、このままで良いっていう方もおられるだろうし、ここで30年、40年頑張っけて子育てするぞという人たちもおられるだろうしね、本当に大変だと思いますよ、意見集約は。

<清水課長>

前回の市民の人と意見交換をすると、今平均が65歳位が平均ですので、あと20年という部分で、もあまりお金をかけないで細々って思っている人も。そうじゃなくて、もっと生き生きとこの20年を過ごしたいと思えるような、そんな事に発展していけばいいなと思っています。活性化していくことで、生き生きとした感じが受け取れれば、また住んでみようかなという相乗効果みたいのが出てこればいいなと気がしています。

<椎野委員>

若年世代の定住を促すという為には、先程からお話に出てたとおり、子育て世代が住みたいと思う居住地域を如何に作っていくかというのが非常に重要だと思うんですが、私も子育てをしまして、常々思っておりますのが、ちょっと実家が遠いものですから、もうちょっと親元が近くなったら子育てがしやすいだろうなという、他の方は親元が近いと、子供がちょっと熱を出して夫婦仕事があるので、子供を預けたりとか、熱があると保育園で預かってくれないので、子供を預かってくれるだとか、ちょっと預けて夫婦でどっか行くとかがあるので、そういうことでやっぱり実家の近くに帰ってきている世代が多いんじゃないかと。つまり親は花川北にいるんだけど、緑苑台だとか手稲とかに住みつつ、時々

訪問して、子供を預けたり、親の様子を見たりというような世代もあるのです。ですからそういう方に、花川北に戻ってもらうように、やっぱり、血縁とか地縁というか、全く新しい人を呼ぶよりは、その土地に住んでた人とかゆかりのある人をまず呼び戻すというか、そういうような戦略はあると思います。

以前にも話したのですが、働く場所は新港の方で働いているけれども、住まいは札幌市内。それは住みにくい何かがあるのかなと。それが何なのかっていうことが分かれば、もうちょっとその世代の住みやすいような条件を提示していくとか。

<清水課長>

今は大分増えてきたんですけども、石狩はアパートが結構少なかったりしてまして、それと、間取りの大きい物件はあったんですけど、ちょっと小さいタイプのやつが新琴似だとか屯田だとか麻生だとかそっちの方にしかないという事で、値段的にも逆にそっちの方が安いということで、逆転現象っていうかですね、新港に働いていても石狩に住まないで札幌に住むという、安いし手頃な面積だし、それに距離的にも車ですと、5分、10分の違いですよ、花川に住むのか新琴似に住むのか。ということでは、残念ながら選ばれない時期がずっと続いていたのかなと、だからそういう意味では、その辺のニーズを上手く捕まえて、これは行政側でできる話ではないですけど、そういった不動産を提供していければ、もしかしたら住んでもらえるかもしれませんし。

<伊関委員>

そして、北はお店も無いですね。

<南部長>

元々は、小さなスーパーがあったんですよ。でも大型ショッピングが市外にできたものですから、みなさん、そこでの買い物が増えていったんですよ。しかし、年取って近場で買い物しようと思ったら、近場のスーパーがなくなって、コンビニで買っているような状況になっているのです。その辺を上手くできないかなと思っています。

<清水課長>

そうなんです。生協とかもそうですけれども宅配ができていますので、そういう意味では、インターネットで注文することも、そういう世代が育ってきているので、60代の人でもパソコンを使えるような時代になってきていますので、そういう意味では今後そういう風になってきているのかなと。

<若林委員>

環境が良いとかだけじゃ駄目なんです。買い物、交通、病院とか、便利さがなかったら、まだ発展しないんです。北海道の札幌の人口は増えてるけど、過疎化が進んでいるのはそこなんです。買い物は出来ないもの、交通は悪いもの、病院はないもの、学校はない、それから、若い人にとって働く場所がない。そういう事がですね、生活の三大要素っていうかですね。だから今屯田地区なんかが発展してるのは、あそこは前は原野だったんですけど、大型店ができて、それが核となって色々と人が集まる、人が集まればそこに病院だとか銀行ができて、そういう便利なものがどんどん集まってくる相乗効果だと思うのです。今回そういったことを考えてまちづくりをしていかなかったら人は集まらないと考えています。

<清水課長>

実は、花川北団地の部分で今新しい展開として UR 住宅という、昔の都市整備公団、いわゆる公団住宅がありまして、現在 UR 都市機構、通称 UR 団地と言いますが、そこで全国的に空き部屋がある中で再編しようということになっており、石狩の生協の向かいにある団地についても再編をしようと UR 機構が動いていて、住民の方々に説明会を何回かしている最中です。どのようなことかいうと、平均的に空きがあるので、それを上手く集約して、効率化することで経営を安定化してサービスを維持したいと、そのことによって完全に空いた棟を取り壊して別な土地利用を図るという、石狩は全国的なモデルケースなのですが、これが具体化すると、生協の向かい側の北側ブロックの所がすっぽり空くのです。その部分の新たな土地利用で、UR 機構さんもそうですし、地区の人達がどんな施設を望むかによって、都市計画を緩和して、賑わいを求めるのか、あるいは医療ですとか福祉の方に特化するのか、あるいは両方混在した形がいいのか、多分そういった話もさせて頂くような場面が6月以降出てくるのか、と思っています。ですから花川北というのは夜、お酒を飲むですとか、そういう場所が今までなかったのです。その必要がなかったということもあるかと思いますが、要するに、札幌通勤者がかなりのウェートを占めていましたので、先程平均65歳ということで、もう退職された方もかなりおられますが、現役の時は多分すきのか、麻生とかで飲んで帰って来て、後は家に直行するっていう、そういうパターンが多くて、花川に飲み屋さんを求めるニーズが多分低かったと思います。ところが先程申し上げた通り65歳ぐらいで退職して自宅にいる、多分同じ年代の人だとか、近所の人とワイワイガヤガヤする場所が今花川北に無いというのがもしかすると、寂しい部分になってきているのかなと、ですからそういった部分をお聞きして、賑わい的なものが作れば、また先程の若林委員がおっしゃられたように、それが地区のまた新たな魅力としてなっていくかもしれないし、それも楽しみな部分かなと、と思っています。

<伊関委員>

私達も学習会とか終わったら、9時とかになったら引き続きお茶でも飲むでしょ、その場所が、何か話したいなと思っても、そういう場所も無いですね。集まる所がね。

<堂柿会長>

それでは、みなさんから頂いたご意見を参考にして、来年度から作業を進めて頂く、ということで宜しいですか。それでは本日はこれを持ちまして閉会をしたいと思います、本日の議事録確認、確定につきましては会長の私と、景井委員にお願い致します。それでは長時間に渡りご審議頂きありがとうございました。以上を持ちまして本日の審議会を終了させて頂きます。どうもありがとうございました。

平成25年 3月12日議事録確認

会 長 堂 柿 栄 輔

委 員 景 井 新 一
